

三七
全傳
南柯夢
初編
五

1280
5
13
へ



1280
5

判田

二七全傳南柯夢卷之五

東都

曲事馬琴編次



霧後の病の上

羊七が宿りり一當世の客店ハ驛稍盡処うう。つとちんすうの家あり
 と昔のぶの生茂の埋と井の車ととも。身上久しくまらりり。細代天井ハ
 中ぶく。雨漏は煤を彩色壁の腰張悉剥く。長押より月を引へ。
 高麗縁の席薦とらう。切はる。藁を網とら。故事もひゆれ。
 竹縁ハ斜に朽く。結おし琴も似し。それハと小一夜を明すめ。
 或ハ廻廻の後行者或ハ伊勢奈宮の男の童。囉翁物まの之更なる
 ど。さ米ハとらう。知しと炊し。枕一ツを借りて。燈火も置と牛ハ牛
 つれの一隊。鼻より脱る。訖声も。小曲子置く。強ふあれ。穴の跡の

買又注しびき出さるが又や旅寝し病鷹の妻は直愛をいふこと
病着より苦しけれ。さうを三勝が信くく。昼の終日看病し夜
心を母びのまゝ親子三人がぬの緒を三すらの糸よ結ぶたむ。そのこ
味線のまの内を受る崩々名もなき。家の老夫のまじり致。たぐれ
和山筑波山降して今の離節も。さらの人よ馬耳東風吹る時小
も藝の牙奴助るほどの薄命。大和よありき三勝を妻とくみ通を
産する。乳母は抱く傳く。假初の出居も。商人ホも會せもはこれ
悔しとららねど。それちよ二勝のいふくもの物とらして。愛ふ小か
ろを食をさつてえつ存命とら。えこせよあるあひも。白行ふて死せ
りし。彼が公標をさつて。さうまゝ。さうまゝ。六年生延く。さうか歎を
ささたり。負の病し身の病片輪車の足腰とて。つらまをい沈むべ死。

愁小が身あれども。彼ホへ人よ奇がられ。それあふ人も憐れ。よろし
小給事。五ささるるもあつん。親へあくとも。さうか歎く。愚癡飲ふ
をさる。親をまもむ。小父のふりあり。園花も今ころ。他は縁や
締びん。あつと。恨むらんと。もや。も活が。か身を指さ。妻や
子の。又浮い。散もありぬべ。とら。ひとら。覚期さく。さ。翌の夜を
ひら。とも。あつと。三勝。その夜。五六合の米と。三十の錢を。二更の
比。及。ま。つ。夫の妻否を。問。か。か。か。小枕。暁の。燈。火。迷。つ
ると。小夜更る。ま。ま。七。腰を。撫。捺。る。初。未。来。り。く。成。計。り。願。ふ。小
ま。七。今。宵。限。りの。名。残。と。さ。ひ。く。さ。ら。う。ら。暗。禱。つ。且。て
三勝。夫の。睡。る。を。え。く。滑。り。ま。ま。を。休。め。つ。物。を。引。被。り。か。を。と。撫。抱。す
夫の。ほ。ろ。り。よ。臥。し。結。糸。と。く。起。き。火。を。乞。病。と。煮。き。て。夫。と。女。児。を。食。

音
良人
病

結
實
三



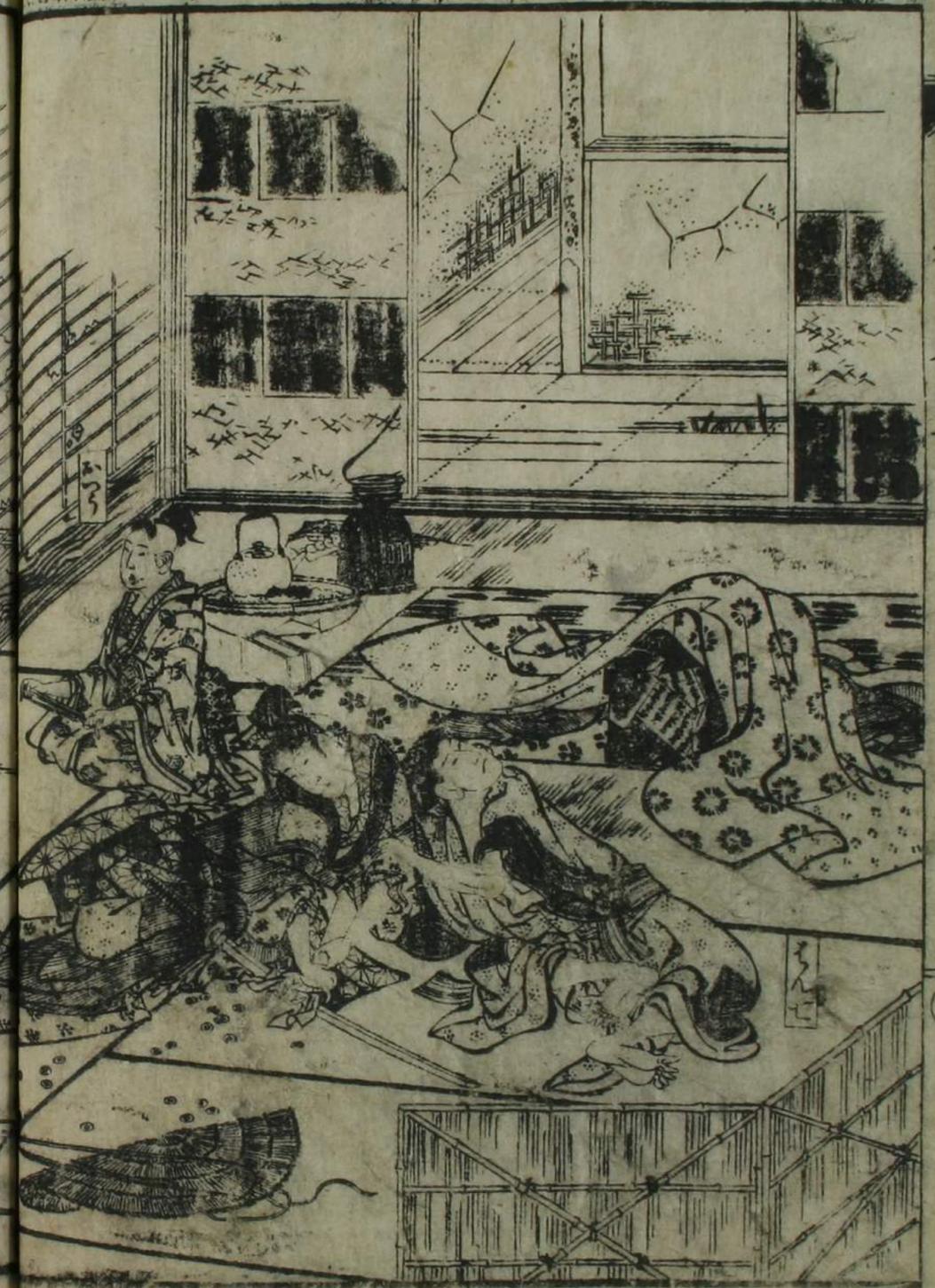
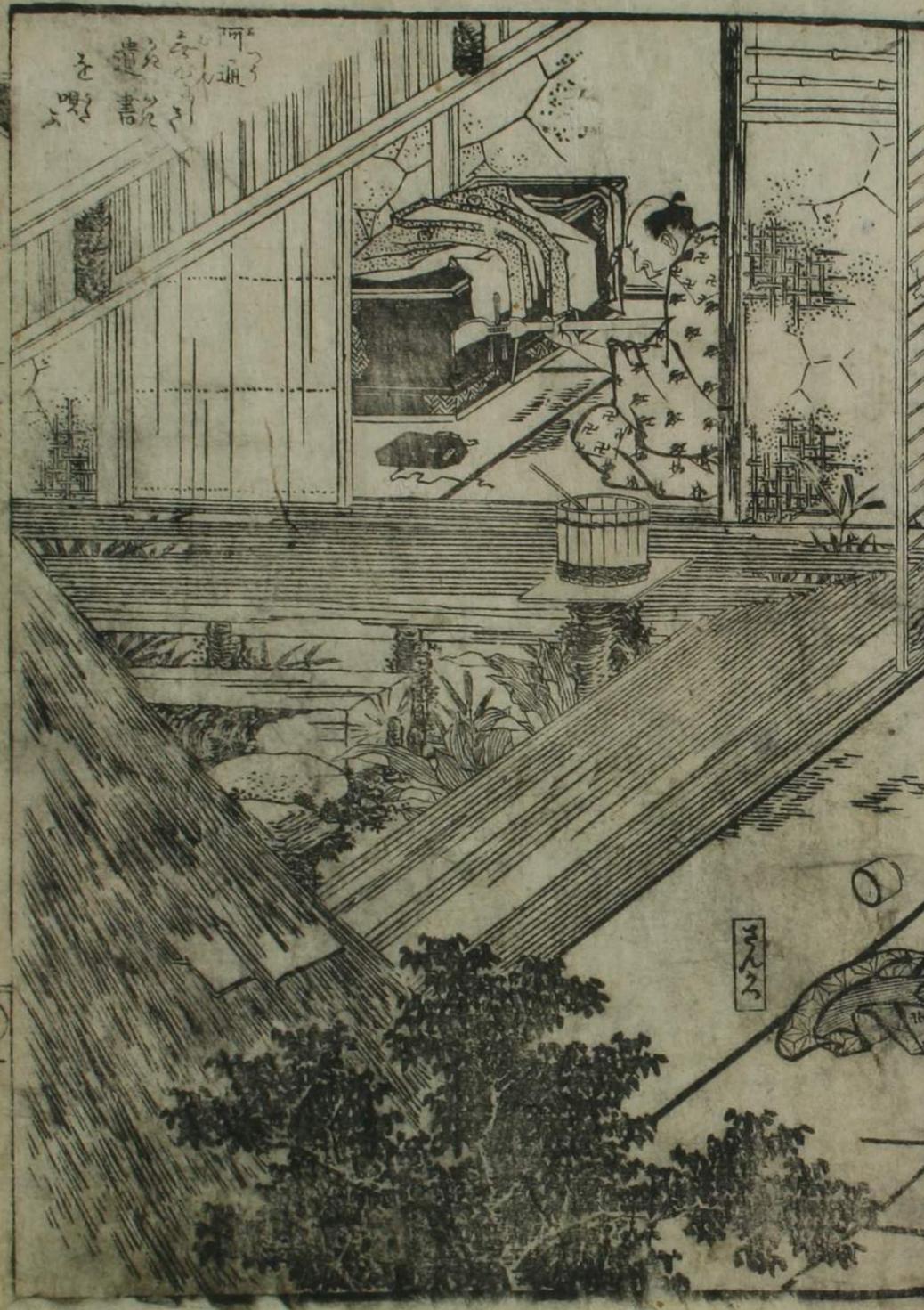
三



三

なよあどくゆりありざる。彼三味線の張りぬ放り。新やや歯ぬふい
りて逐一と移る。夕びは睡を催さば父の女児を引奇つ。よく記し
忘るるよ。母がゆかり。誓もせん難れもせん常よの暮ろとは寐よ
とのふよ。今宵ハ二更は移もわじ尿もく未ふとふをたれどまこつ
死寢の膝を枕は睡顔。なび覺しても愈ぢぬ。ふ子の夜をつぐ
とふればありハ壮士の勇たさるも思愛ふ。すうさふたの涙あり。且して
涙うらうも。噫れあつらひひひ。お義のなび捨一命と妻マ子よ
絆され。くふささ。活る悔し。死ぢりとひふ大和ある。園花
が恨も散父の怒も解ぬべし。とらふへども。三勝が夫のなび乞食して
嬾とらぬか操ハ。此稀ある負女のおも。家を失ひ今宵又。これよこ
捨らる。夫婦一世の別とも。とらふとらふを慕し。女児ハ母より父がら。

面影をえ忘さる。年長物の哀れをも。ある程悲しくあらん。か
蛇気もあつてちたうあり。母よ孝行盡せり。五才の依子が三の浦
かのりく。唄も歌も今親の末期の役も。是も過世の業因あら
ぬ。とくも教ふる。唱をを忘れ。と寝顔を眠く暇を。ちと
膝を引。親子戯ても喝ても。昔忘れぬ。両刀の父の像見の乱焼れぬ。武士
の魂と押戴に。技もあら。襟らうらう。中刀。腹へ突まんとする。折
しも。間近くは。足音よ。とらふ三勝がゆり。と刃さう。とらふ
ら。次のるの障子。さ。暗く。とど。とら。とら。とら。とら。とら。
所と笑ふ声。を。甲夜よ。歌。一。旅。彼も。とら。とら。とら。とら。とら。
らぬ隙も。か。と。又。とら。とら。とら。とら。とら。とら。とら。とら。とら。
返。と。声。と。引。れて。や。三。勝。の。喘。く。走。り。ゆ。り。と。倍。と。え。と。吐。嗟。と。内。い。



女児が物ごとりよて。中も及びぬあまのれい笠松平三あり。志づるよ今宵の
 の驛路を。それよ。一々。結衣を賣。彼此の門よ。在女子あり。笑り。そ
 面を。一たれど。その声を。すくよ。が女児よ。似たり。それと。さひさぐ
 ち。あ。の。回。び。ら。よ。ま。う。り。く。死。規。ふ。よ。果。し。く。それ。花。さ。ご。り
 わり。し。う。ど。ま。が。川。舟。が。送。言。の。送。成。す。ん。ら。よ。名。告。り。も。あり。げ。の。之。味。徳。め
 ま。う。り。の。さ。あ。ら。め。ら。く。操。持。と。五。十。よ。る。老。か。ま。よ。と。樵。の。孫。の。遍。小。口。に
 弾。と。あ。り。の。う。愛。ら。れ。声。を。す。ま。一。決。の。種。悲。び。わ。く。る。竊。柱。小。撥。の。當
 度。も。定。く。む。あ。と。と。戻。る。糸。巻。よ。音。締。も。湿。る。夏。愛。は。い。恩。愛。の。揚。う。け。く。
 川。舟。が。自。害。を。ひ。た。笛。る。調。子。ら。び。の。不。骨。者。あ。く。出。す。た。辰。を。く。く。
 東。の。果。さ。く。呻。吟。も。三。勝。が。往。方。を。あ。ら。ま。ほ。く。さ。を。う。く。く。も。歌。を
 あ。の。し。て。う。ら。む。城。門。を。殺。さ。ぶ。た。ど。い。ひ。も。果。ぶ。つ。と。空。可。く。矢。庭。よ。み。を

棄。集。ひ。う。り。す。く。鞋。よ。あ。ま。さ。く。三。勝。よ。通。字。し。つ。い。ひ。中。の。樓。と。六。年。の。む。じ
 三。條。河。原。よ。く。川。舟。を。入。よ。棄。ひ。去。ら。れ。と。死。も。も。脚。平。足。平。を。し
 殺。し。た。罪。脱。び。く。さ。ひ。て。その。夜。路。を。逃。去。し。四。年。あ。り。を。奈。良。よ。て
 高。天。神。の。茶。店。よ。く。領。主。の。代。表。う。と。か。ぼ。れ。武。士。小。割。離。を。患
 也。大。佛。の。ほ。と。り。よ。到。く。これ。を。披。け。び。さ。ひ。も。う。け。ど。飯。の中。よ。一。包。の。金。を。埋。ま。
 三。勝。が。身。價。と。字。し。たり。み。の。為。体。り。と。怪。し。れ。ば。縁。故。を。あ。ら。ま。さ。り。や
 とも。豫。さ。く。三。勝。よ。由。縁。あり。と。す。く。五。條。よ。い。あ。れ。て。赤。根。寺。六。好。の。み。を。回。り
 聖。人。答。さ。く。彼。人。を。その。児。守。七。と。い。ひ。の。落。よ。あり。と。三。勝。と。う。め。く。三。勝。の。病。引
 逐。電。走。る。罪。よ。う。ら。く。永。く。出。仕。を。止。ま。直。執。虫。あ。ら。ま。と。う。り。さ。す
 至。く。それ。あり。ら。く。三。勝。を。棄。ひ。去。ら。る。結。髪。の。夫。守。七。ま。う。り。あり。し
 とも。あ。ら。ま。れ。ば。方。人。で。徒。と。挑。ま。争。ひ。入。を。殺。さ。大。罪。を。犯。せ。ら。を。捕。し

贈りし。そのうらめしき三勝を。結髪むすみげの妻つまあんなうらめしき。彼かれを棄すて去さて。平君へいきみの悪名あくなを雪ゆゆ。直ただに刺殺さしころして。それ又自殺じこく。情慾じやうよくのたふせ。さる身を潔いさかせんめと。只ひたひた管くだを定まれど恨うらみむる人ひとの女児むすめを産うむ。その罪つみはいと深ふかく。さて三勝さんしょうが身價みねの。その親おやよもあゝ。あゝとて立襟たてえりある。旅宿りよども。厚あつ舎しや氏うぢと。後のうらまへ。相殺あひころむれ。彼人かひと。言ことを食くむ。て。件くだんの金かねを没ぼつする。さる。よ。い。才さいの。長ながを。さ。り。と。その。命いのちを。喪なげむ。艱苦げんくを。厭いとむ。三勝さんしょうが。往方やうほうを。索もとめ。あ。り。せ。り。も。稀まれなる。大丈夫だいぢゆう。す。て。か。ら。が。あ。ら。ず。い。と。頼たのり。く。ゆ。と。頻しばしばに。稱なづ贊さん。さ。り。ち。り。う。が。三勝さんしょうも。又。嘆賞たんしょう。と。平へいに。す。て。い。な。れ。女児むすめよ。急いそぐ。い。さ。う。な。れ。と。も。彼かれが。彩さい代だいの。骸骨がいこつを。賣うり。自この。老樂らうらくを。と。ら。ん。と。す。て。い。ら。れ。志こころ氣がある。あ。り。常とこに。只ただに。才さい夫ふ婦ふが。孤忠こちゆう。を。烈れつに。日ひ以も同どう。と。結むすぶ。は。この。夫とこと。この。妻つまあり。絨じゆう。小せう。一いつ。世よの。奇耦きぐ。天あまの。結むすぶ。良縁りやうゑん。加か。之これ。孫まご女児むすめが。怜あはれ。憫あはれ。る。容ゆる止とも。父ちち。

小似こに。う。いと。愛あい。と。年としの。り。く。つ。と。名なの。何なにと。い。ふ。と。同どう。と。を。か。の。雄ゆう。よ。の。指さし。を。ひ。た。年としの。形かたち。名なの。あ。を。と。い。は。れ。け。り。日ひ未み母はは。が。を。う。ら。め。す。も。祖い父ふ。の。在あり。す。い。ひ。あ。じ。あ。い。う。が。え。と。う。ほ。う。と。い。ひ。け。り。い。つ。も。も。こ。よ。あ。り。せ。よ。父ちち。と。母はは。の。中なかつ。と。と。参まゐられ。ぬ。と。い。ひ。け。り。言ことの。ま。り。又また。二親ふたおやの。袖そで。も。ま。ま。ど。め。れ。わ。ら。る。平へい三さんの。目めを。押お拭ふ。ひ。膝ひざ。よ。あ。を。を。引ひ載の。つ。あ。る。女児むすめを。め。ら。さ。ら。う。が。ん。と。あ。り。の。親おやも。親おや。恩愛おんあいの。絆かぎ。よ。の。賢けん。愚ぐ。剛臆ごうおくの。差別さべつ。あ。り。猛まう。打うち。勇ゆう。士し。も。あ。ら。ぬ。り。の。を。鬼おに。こ。り。た。も。り。よ。ら。れ。と。恨うらむ。も。親おや。慈あはれ。の。喞う。言こと。う。り。ま。て。い。平へい三さん。は。練あら。れ。て。終つひ。志こころ。を。果は。す。い。は。す。い。は。す。も。も。あ。れ。ど。と。と。く。ま。づ。く。歎なげ息いき。し。り。り。り。の。の。と。れ。た。夜よ。の。既す。小更こもう。と。う。く。宿やどの。あ。る。と。が。臥ふ。た。る。套あ。房ぶどう。の。方かた。遠とほ。く。れ。ば。この。件くだん。の。い。ち。を。あ。ら。む。平へい三さん。の。膝ひざ。よ。睡ね。れる。あ。を。を。三勝さんしょう。よ。抱かか。ら。り。朋卷ともまきの。財布さいふ。と。う。り。奈な。ま。う。く。い。は。る。自價みね。一いつ。包ふく。と。う。り。生い。ず。く。夫あ。婦め。が。同どう。よ。あ。ら。う。と。三勝さんしょう。が。

出更し西を存す走り。十日あたりし。浪速に到る長河とゆふ不
 二猫を殺して。そなりろとも。膝を容止。何さか子活業よせんと強まる子
 平三の原未俳優のるよ。孰し。髪を化りよ。入をゆき。られり
 らひつれ。入髪とり。のを化り。お七の毎日。彼此よめ。出て
 これを鬻ぐ。改髪。改髪を方。す。究。と
 買人も。り。り。その。三。又。髪。の。假。二。平三と
 とも。これ。化。後。よ。め。の。入。改。髪。の。ま。れ。と。髪。の
 髪。を。掩。れ。魏。宮。子。蟬。髪。を。製。る。め。緑。雲。擾。り。て。曉。髪。を
 梳。る。が。て。婦。女。子。大。子。改。重。一。髪。を。化。出。た。れ。と。二。傍。ま。七。を
 綽。号。と。長。河。の。養。父。と。る。ん。ゆ。び。り。の。さ。れ。の。ま。る。さ。ら。ら
 二。の。入。り。あ。く。隠。養。屋。と。世。を。の。が。ま。せ。も。ら。る。の。外。高。人。と。り。わ。せ

住。又。住。の。岸。の。姫。年。預。御。達。假。髪。め。され。よ。の。外。も。髪。結。眉。掃
 玉。柳。菊。と。と。と。と。近。く。浪。速。津。を。呼。あ。け。も。皆。獄。よ。と。数。日。の。療。治
 小。三。係。が。身。價。を。遣。い。減。ら。又。ら。よ。末。と。と。活。業。を。取。も。本。後。諸
 難。費。られ。彼。二。三。十。金。よ。及。ぶ。と。は。贖。ふ。ま。す。と。い。て。件。の。金。を
 舊。の。数。よ。あり。厚。倉。二。年。を。夫。よ。返。さ。る。と。親。子。夫。婦。られ。が。た。よ
 け。その。を。盡。し。夫。の。物。も。活。業。よ。懈。ら。と。妻。の。又。節。儉。を。宗。と。し。て
 飲食。も。薄。く。ま。れ。と。毛。も。細。死。癩。世。帯。よ。と。二。三。十。兩。の。金。を。忽。ち
 小。貸。殖。と。せ。り。も。あ。く。と。れ。の。ま。る。と。お。七。の。父。お。六。が。女。不。口。ら。る。も
 と。る。れ。が。の。ひ。く。よ。太。良。と。五。條。の。な。件。と。探。向。よ。ま。あ。い。今。あ。月。因。と
 め。れ。り。り。ら。ら。老。ら。ら。花。の。一。と。び。想。思。病。よ。ら。取。て。り
 た。え。り。首。を。擡。と。の。七。年。が。程。死。七。す。と。信。と。せ。れ。る。典。籍



世に髪
行はる
松と
稱と
走

庫相袋巻之五

一七

却病をよみふとく。只典儀も爰浪も憤を忍びく。半七が安否を
 いひも罵らそ。その花ハ又密に五條へ消息く。そりく半六が安否を
 問。これハ日來嗜むもの。彼ハ堅きなり。おん歯子あひなり。とて
 換りの廣りの、魚肉野菜調理するを贈ぎ。又蟄居の人の氣の
 結まきあらうとく。佳酒を贈るともあり。春のとり冬のもめ
 みの衣服の洗濯もを著る。うづづぬやう。賄ひ遣をふ
 又母あへうく匿して。うろ利なる奴婢。只二人。この條のりを与ら
 けり。半六ハ園花が。信あり。不感涙を拭ぬ。りるんバ半七ハ
 諒ま。うた舞く。よひうえ。がる貞女をぬり捨てる。さきく虚花
 のあへのうざりが。舞く。とり老狐ハ魅られ。親をも妻をもさへねよ
 九ツのうま生ハ變るとも。半七ハ子に。只園花の。実の女児と

よひ進。さうとく。ふがそれ限り書に。返りさる日もあり。とて
 かし。春去春来。既ハ七年を。さのうろ誰の。とて
 半七ハ彼舞くを妻とく。浪速の片は。長町と。とく。あり。
 今ハ商人とありて。葦屋と。假も。のを。活業と。
 通。の女子。産。既ハ六才あり。大和へ。十里。浪速
 津。住。を。人。も。悼。ぬ。嗚呼の白物。後中。の
 風声。園花。を。これ。を。ト。び。半七。が。悪。を。教。
 又。ト。び。ハ。又。母。り。父。あり。の。主君。の。威勢。を。借。り。う。る。崇。
 の。し。の。み。ご。ん。と。く。更。ハ。安。を。も。り。あ。と。と。え。や。半七。ね。一。よ
 不慮。の。り。あり。て。ハ。さ。が。身。の。好。も。又。ハ。勸。め。の。た。め。ん。と。え。
 と。の。人。ハ。い。る。べ。い。や。か。夫。舞。く。を。付。け。く。竹。園。の。備。を。在。と。

外よりその安否を尋ねて慰むるもなれど。その身の操へ
 言告やうん便のめど。さうあ風声をひひ止むと。胸を
 ぞよおし。果しく典膳も。半七がみみくさうと。大に怒り。密に
 縁由を物ゆ。彼りゆ。年暮の憤を散さんといえ。婢竊
 盗し。懸る園花のつと告ぐ。園花打撃た。それらそら
 ぞよ違ね。今の只あ身を殺し。又母を凍夫を殺し。年暮の誠を
 をもあし。けり。あうまう。とさひ定められ。まさあめり。頂
 ちの年暮の上旬。宵の霰も吹雪。你ゆく。氷る夜。園花竊
 小起出。そと行燈を引あ。腕も細く。力も。寝乱し。衣
 鬘の毛の顔。ゆるを搔め。只あや。み。あ。侯は墨を
 掘流。嫁入の。たの硯箱。夫の教。と。教を。時繪。ち。じ。も。い。ま。

夏毛秋毛とある筆の命も。今宵限る。も。あ。り。あ。ぬ。又母の歎。た。の
 こと。と。推量。ら。し。聖。ハ。ふ。身。を。啼。鳥。の。迹。の。ま。又。細。と。書。字。め。て。

漬ぐ。ら。か。る。文。あ。め。り。な。り。親。を。祝。ぎ。ま。の。う。さ。る。ひ。と。あ。り。ま。

田巻納人と。さ。あ。ひ。の。つ。ど。い。の。行。り。閉。窺。え。ん。咳。し。く。屏。風
 搔。ぎ。り。内。よ。入。る。を。又。ま。が。母。親。り。園。花。打。撃。と。驚。た。つ。忙。し。く。遺。書
 を。袂。の。内。み。り。う。さ。る。ん。と。い。ま。も。母。へ。え。ぬ。白。し。て。ほ。ろ。ろ。ち。う。ろ。居。る。い。や。う
 昨。今。の。寒。も。殊。う。よ。あ。ゆ。る。ふ。久。く。病。く。や。り。ま。が。り。小。夜。あ。け。く。何
 そ。ろ。あ。の。う。流。る。水。あ。こ。ろ。あ。ま。い。も。落。る。花。こ。ろ。う。と。致。鬼。く。た。半
 七。を。あ。り。と。と。あ。り。と。あ。り。と。母。が。あ。の。安。う。ん。大。和。の。あ。り。あ。る。神。佛。あ。の
 願。事。も。あ。け。つ。し。顔。の。細。く。を。え。る。毎。ま。が。身。の。病。う。る。あ。母。苦。く。咳
 入。り。あ。夜。半。の。声。あ。り。び。ま。あ。り。睡。ら。ま。い。と。あ。り。今。宵。の。常。あ。り。



人をもむむ記出のへ近曾頻又風笑ある。むせかすのふよめるま
 べ。さめゆぐと回園花の只後さくさく。さくさくさくさく。あせいで。あせ
 浪ほほぐと女児の顔をさく視る。痛しや。さうた人の苦勞さとしてし
 面瘦のえゆるこ。あまの風笑を傳はひひくはるねど。さうさうさうさ
 黙止せがむせへ舞くの三擲とやんを伴ひ。南人とうりて浪速あり。
 女子と産一うとぞ。養ひあひあひあひあひ。さく腹とて擲さ
 て年本の憤をさくさん。とらえさくさくさくさく。さくさくさくさく。さく
 るつ。又しひあるへ今宵さくめあれど。いふが五條へ嫁うめひいばむせ
 誓つるうありとて結髪せし女子のさくいふ。いふさくさく。離別して奈良へ
 入りあるとしひつる。又いふが誠を告ぐ。うは口渡ひひを。竊は
 るるるもあれば。此彼さくあはさる。さく。彼三擲のむせが結髪せし

女子あふあさく欲。あれが彼人の恨のさくあはさる。さくさくさくさく。さく
 を婦し結びる。親と親とさく過る。さくさくさくさく。いふがさくさく。主君はさく
 あげさ。いふ許を受替。姻を整せし。ませが正室さくさく。後彼人結髪さ
 妻あればさく。その私の縁さくさく。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さく
 君又さく遠くさく。婦の夫はさく常の道さくさく。密よこの理と述さく。
 いふを浪速へ送り遣さくさくさく。挿さ女子のさくさく。さくさくさくさく。さく
 ぬ亦為さく。歎さくさくさくさく。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さく
 一夜の鶴。夫をさくさく子さくさく。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さく
 たりや。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さく
 のほさくさく。さく母の不孝の呻さくさく。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さく
 ぬのさくさく。親もさくさく。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さくさくさくさく。さく

定め、の、建、場、を、今、に、曾、太、郎、が、視、多、く、暇、を、も、つ、べ、し、と、い、ふ、曾、太、郎、
これ、を、ゆ、く、頭、巾、を、戴、き、か、ま、を、着、て、橋、を、出、て、病、病、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、定、
の、承、を、い、ふ、は、何、違、う、え、ど、足、の、敷、の、ま、り、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、腰、を、打、
違、の、疋、布、を、解、く、後、三、緒、を、通、し、ん、と、い、ふ、は、橋、夫、の、手、も、も、そ、で、冷、笑、ひ、
こ、の、う、ぶ、さ、ひ、さ、ふ、の、う、ぶ、の、駄、賃、を、も、つ、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、乗、せ、と、定、の、
外、に、酒、賃、を、い、ふ、と、い、ふ、は、脚、氣、を、發、し、ぬ、は、茶、の、價、を、も、つ、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
す、と、い、ふ、は、曾、太、郎、又、一、緒、の、旅、を、停、め、て、出、を、一、人、の、橋、夫、強、取、て、中、
磯、と、い、ふ、と、い、ふ、は、眼、を、睜、を、し、る、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、百、二、百、の、半、銭、を、い、ふ、と、い、ふ、
く、と、い、ふ、は、我、を、欺、く、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、一、人、の、手、を、も、つ、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
ゆ、衣、服、も、腹、を、通、す、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、罵、め、の、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、左、右、を、
競、ひ、鬼、と、い、ふ、曾、太、郎、忽、地、大、に、怒、り、さ、く、は、汝、木、賊、も、よ、孤、客、と、い、ひ、蔑、り、可、
惜、首、を、も、喪、ひ、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、笑、う、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、目、前、へ、閃、め、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
入、錯、し、直、に、撲、地、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、朽、惜、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、廻、春、を、拂、除、頂、
髪、投、げ、雄、の、雌、を、へ、禮、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、岸、破、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、記、倭、僮、を、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、著、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、丁、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、蹴、倒、し、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
母、を、押、著、つ、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、挑、灯、の、火、光、を、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、そ、の、面、を、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
の、轎、夫、へ、別、人、の、い、ふ、は、往、南、都、を、追、放、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、今、市、全、八、郎、布、施、郎、
九、布、を、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、曾、太、郎、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、怪、し、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、羞、を、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
郎、を、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、と、い、ひ、つ、頭、巾、を、搔、脱、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、九、布、を、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
を、認、り、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、天、小、驚、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、慌、忙、逃、れ、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、引、抜、く、刀、の、脊、打、肩、腰、の、嫌、ひ、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、侍、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、
頼、の、光、賊、が、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、景、迹、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、は、不、忠、不、義、の、天、罰、と、い、ふ、と、い、は、せ、ん、と、い、ふ、



布地蝶九郎



圖巖
曾太郎
悪棍を
懲ら

赤松良郎

今市全八郎

南木邊三王

全八條九弁の七年以前不奈良を追放せしむ。按津河内の
 間を徘徊し。到るところ悪友との交参しぬ亦為しむ。せ
 程小里入亦憎まじ。使うりて二人のりとも旅轡を昇
 る。生活よとるんと。耻をあらはれが羞るる。動もバ旅客を切
 る。非法の残を貪りんと計較ぬ固不是憎てもる。憎む
 令死癖者うり (村田)

三七全傳南柯夢卷之五終

日本百將傳一夕話 全十冊

松亭金水編述
柳川重信畫圖

抄と本朝岡岡必来 神代のとる且く舎て 神武の皇朝より今小登が
 波西王母が挑なして三千年向もその中間小生もり。七の幾許恒河沙とや。く
 限りもる人物はもろむ威名満内小灌と功と萬里小遠さりのる来拳を美ふ。こ
 て中も傑然たる名將の事實代撰し輯むる處一百員上占の 神武皇朝
 のとる順ひ奉りて勲績を道臣令小訪まり。元龜天正際小至つて千古獨歩の
 豊公小輩はあは備作者が杜撰し輯むる所をあらはせ昔林羅山先經その
 人物は億兆の中より擇み出さして百將傳と題せられ各一小一代の勲績の概
 略を獲せり。銘せし書ある人のよく知所しして万代不易の法書ならん
 今に在りて作しそび歎ひ其文と願字小和らげ歎ひ新傳補し。皇朝の
 觀たるせと何事も小冊あり事いぞらるは我 皇朝小勲績の名將

